

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

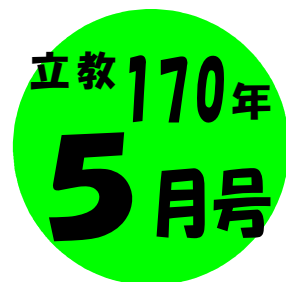
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



ばらのワルツ

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりがおつとめに真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加



少年会 育成講習会

少年会 育成講習会

東水島分教会 藤本 知加子

3月21日、大教会祭典後、午後より少年会育成講習会を受講させていただきました。

少年会笠岡団团长さんのお話の後、係の先生から講習会のために来会された少年会本部の先生の紹介がありました。若くて美しい先生の登場に会場はざわめき、拍手にも一層の力が入りましました。が、当然あいさつとと思っていたところ、いきなりゲームの紹介に入ってしまう、少々ずっこけ、笑いが起こり、場内はゲームモードへと一変しました。

少し内容を紹介します。まず、最初は一人でも遊べる手遊び歌。二人組で遊ぶ手遊び歌。次にじゃんけんをして負けた人が勝った人の後につながり列を作



り、大きな円形を作ります。それから「コイン送り」や「震源地ゲーム」等、大きな円形ならではのおもしろいゲームで楽しみました。つぎは先生がたいた手の数でグループを作り、チーム対抗のゲームを楽しみました。伝言ゲームや、はちまきを頭にリボン結びにしてほどこぎ、バトンタッチしていき、早さを競うゲーム。「浦島太郎」と「うさぎとかめ」の一節づっかけ合いで歌っていき、いかに上手に歌うか競う「つぎはぎ歌合戦」。「むすんでひらいて」の「て

抜き」「で抜き」を完璧に歌えるかを競うものなど。受講生は幅広い年齢層でしたが、どの方もとても真面目に必死に取り組み、そして大いに楽しんでおられたようでした。かく言う私もついつい熱が入り必死でやっしまいました。そして、とても楽しかったです。先生のあきさせない、間をもたせないテンポよい運びに2時間という時間あっという間に過ぎいきました。

この日勉強したのは、①道具が無くても楽しめる②少人数でも大勢でも況に合わせて、とっさにでも使い分けられる利点があります。今回勉強したことをいろいろな場面で活用していきたいと思います。

最後に团长さんのお話で、おとまり会を毎月かさかさず10年間実施し、ようぼくが育ったということ、参加してくれた子供から、またその子供へと引き継がれていくということのお話を聞かせていただき、团长さんが「蒔いた種は必ずはえます!!」と自信をもって言われた言葉が心に響きました。

鼓笛バンド講習会

こてき台宿と

総会に参加して

福山分教会 田中 舞 (小4)

私は3才からこてきを始めました。

私が大教会の合宿に行って楽しかったことや、思いうに残ったこと、うれしかったことが三つあります。

一つ目は、新しい友達が出来たことです。

二つ目は、夜に友達と学校の話やこてきの話などしたことです。

三つ目は、楽しく練習をしたことです。

私はうまくふけないけどみんなが、がんばっていたので楽しく練習が出来ました。

総会で楽しかったことや、がんばったことごとくと思ったことが三つあります。

一つ目は、手おどりをおどるとき、お父さんに言われた通りに指をのばすと言うのを、がんばりました。

二つ目は、ドッチボールです。私達は三位になったけど、とっても楽しかったです。



三つ目は、高屋たいの人がダンスをしているのがすごかったです。

私は大教会の合宿に参加してとても楽しかったです。また来年も参加したいです。

おつとめまなび総会

少年会総会を終えて

芳井分教会 佐藤 真孝

去る四月一日、笠岡団少年会総会が行われた。

このたびの総会は、私にとっては笠岡団少年会委員のご命を頂いて初めての総会であった。これまではおつとめの役割の当たっている子供たちにおつとめの練習をさせ、当日に連れてくるというだけのものであったので、総会に対してとりたてて思うところもなかった。しかし、いざ企画・運営の立場にまわってみると、実に多くの事柄について気づき、考えさせられた。取り上げてみたいことは沢山あるが、このたびは紙面の都合と私の文才を考慮して、一つの事柄だけを取り上げて私なりの考えを述べてみたい。

読者の皆さんにもご経験がおりだと思いが、行事を企画し運営する立場に立ってまず一番に気懸かりなことは、とにかく事がとどこおりなく運ぶかどうかということである。そして次に参加者の反応、つまり参加者が喜んでくれたかどうかで

ある。しかし、私が今回取り上げて問題にしてみたいのは、そのいずれでもない。それは、信仰者の立場から見た、おつとめまなびに取り組む子供たちの姿勢についてである。地方・鳴り物の音が見事に揃い、てをどりにおいても文句のつけようのない手振りでおつとめまなびを勤めた上下ブロックの子供たちに会場の皆が目にした、その事を中心に取り上げたいのだが、その一方で私は会場での別の出来事にも注目した。それは、自分の役割を終えた子供たちの多くが、場内アナウンサーの呼びかけにもかかわらず、神殿内に戻っておつとめまなびの時間を共有しなかったという点である。私はこの二点について、ただ単に、評価すべき点と反省すべき点という観点からだけではなく、おつとめに対する子供たちの態度、ひいては彼らを教え導く我々のおつとめに対する態度を質的に現しているものとして見てみたいと思う。

先にも述べたように、上下ブロックの子供たちがあれほどまでに見事なおつとめを勤めるには、相当な練習を積み重ねてきたことが想像できる。つまりそこには教え導く側の、おつとめに対する並々ならぬ熱意が汲み取れるのである。一方、子供たちを神殿内に留めておくことができなかったという事実は、我々大人たちが子供たちに対して、おつとめの意義も感じていない子供たちこそ、こまですることではないだろうかという遠慮があり、その

背後には我々の信仰の希薄さがうかがえるのである。次代を担う子供たちに信仰を伝える使命のある私たちに、これらのことは少なからず示唆を与えてくれる。

ただ単に物理的に神殿内に子供たちを留まらせるだけなら、おつとめまなびを終えて下がってきただけなら、おつとめを誘導して再び神殿内の最後列に座らせば良いだけである。そしてそれをじっと監視していればいい。しかしそれでは子供たちはおつとめまなび総会はとても窮屈なものだと感じ、参加するのが嫌になるだろうし、おつとめそのものにまで嫌悪感を示すようになるかもしれない。まさにこの点について信仰の希薄な我々大人たちは危惧し、躊躇しているのである。上下ブロックのような優れた先達ばかりならいいが、私のようにわが子にさえ満足におつとめの大切さを教えることのできないものもある。それではどうすればいいのか。信仰は心の問題だから、各人がもっと熱い信仰を持たねばならない、などという精神論では信仰精神の希薄な人には通じない。

私は、信仰の希薄なものはそのための努力が必要だと思ふし、まずその努力の仕方について考える必要があると思う。例えばこのたびの総会などでは(個人的な提案ではあるが)、上下ブロックのようなおつとめに対する姿勢を評価して、総会の式典の中で表彰するなどの工夫をすれば、他の子

供たちのおつとめに対する認識も高まり、おつとめ総会に向けてさらに一生懸命努力するかもしれないし、他の子供たちが勤めるおつとめに関心をもち、神殿内に留まることができるようかもしれない。私たちは自らの希薄な信仰を耕す努力とともに、信仰を次代に伝える方法についても、よくよく考える努力を惜しむべきではないと思う。

以上、私の思うところをとりとめもなく述べてしまったが、今後いかに確実に、有効に、楽しく、教えを伝えていくかということ念頭に、おつとめ総会の企画・運営に携わってゆきたいと思う。





土地処で

ボランティア表彰を受けて

陶山分教会 上原 順子

感謝状

上原 順子 殿

あなたは多年にわたり点訳朗読
奉仕活動を続けられ県下の視覚
障害者が多大の恩恵に浴して
いますので岡山県視覚障害者
福祉大会において記念品を贈り
感謝の意を表します

平成十八年十月二十九日

社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会

会長 井上 孝昭



先日、笠岡市の視覚障害者のためのボランティアの「音訳」の会の一員として、県の視覚障害者連盟から感謝状をいただきました。二十数年前に、おぢばの点字文庫主催の「朗読ひのきしん者養成講習」がきっかけでしたが、活字を音声にかえる難しさに、とてもできそうにないと思いつながら、笠岡に帰って来たのを覚えています。それが、時を同じくして笠岡でも市が養成講座を催し、修了生を主にて、朗読ボランティア活動が始まったところでした。「折角学んだのだから何か役に立つなら」と参加したのが現在に至っている次第です。この間には、当初、講師として点字文庫から先生に来ていただいて教えていただいたり、会員をおぢばの講習会に参加してもらったりしました。又、私達の活動は「朗読」ではなく「音訳」だということ、ボランティアの名称も変更しました。視覚障害の人々との出会いがあり、不思議な縁で、現在三人が当教会の月次祭に参拝し鳴物を勤めて下さってますし、その内二人は用木となっていてます。特別なことをしている訳でもなく、毎月テープを作り送付し続けていただけですが、やはり途切れなく続いてきたということに意味があるのでしょうか。必要として聞いてくださる対象者が居る限りこの活動は続けなければいけないということですので、今後も活動してくれる人を養成していきたい、自分自身も、少しでも聞きやすいテープ作りを目ざしていくつもりです。

【20】 けなすことは易しくほめることは難しい!?



ほめて育てるか、しかって育てるか。子育て、人育ては人それぞれ。しかる、とがめる、どちらかというとなら、ほめるには、努力、忍耐、根気がいる。だれにでも、どこかいいところある、と言われても、長所より短所のほうが目に入りやすい。たまにホメことばを言っても、かえってイヤミに聞こえてしまう。よくあることです。

失敗を重ねながらも、少しずつ、けなすよりほめることばを増やし、根気よくチャレンジしてみようではありませんか。明るいほうが人にも神様にも喜ばれるのですから。

第9回 NY会社社長生き埋め事件 尊厳を持って老いを生きる



写真と本文は関係ありません



立教156年10月3日号

天理大学教授 上原豊明



この夏、十カ月ぶりにアメリカ・インディアナ州ブルーミントン市のわが家に帰った。滞在は一カ月足らず。近隣の友人知己と旧交を温め、インディアナ大学に連絡をとり、二十日間ほど家の修繕に迫られた。

残るわずかの日を使い、妻と二人、車でニューヨークへ。マンハッタンに住む息子と一年ぶりに、わずか一日のだらんも楽しませていただいた。その時、ニューヨークで起きた会社社長の誘拐・監禁事件をホテルの新聞で知り、驚いた。彼は、私と同じ六十八歳。林の中の穴に生き埋めにされ、十二日目に救出された。その間、水と果物で命をつなぎ、神に祈りながら、わずかの希望に精神を集中して生きていたという。驚くべき気力、体力。彼はその後、すぐに以前と変わりなく仕事を続けているという。

ここアメリカでは、七、八十歳代でなお生産的な人が多い。定年退職は六十五歳から七十歳。しかも、定年後には自分の経験を生かして、社会のためにボランティアワークをする人も多い。定年に関する限り、アメリカ人は日本人より五、十年長く働いていることになる。アメリカの平均寿命は七十五・五歳、日本の七十九歳(男七十六、女八十二)より三・五歳短いにもかかわらずである。

ともあれ、日本は世界一の長寿国。高齢者が増

加する一方で、若者が減っている。そのため、年金財政の破たん、痴ほうや寝たきり、その介護者や医療費などと、難問が山積している。

その一つ一つは専門家に委ねるとして、高齢者にとって重要な課題の一つ、個人の尊厳を守ることを考えてみたい。

デンマークでは、生活環境を変えずに老人を孤独から守り、かつ自助努力を続けさせるため、ホームヘルパーによる自宅介護プログラムを充実させている。障害のある老人には緊急ボタンが与えられ、いつでもヘルパーと連絡ができる。こうして、七十歳以上の人の過半数が自宅生活を続けているという。

日本でも、六十五歳以上の三九・三パーセントが、子供との同居を願っていないという調査結果がある。

「できるなら子供には迷惑をかけたくない」という思いからだろうか。こうした人々の自助努力のできる施設、病に倒れた場合の社会的介護のシステム整備が急務である。しかし、急激な高齢化の中、どこまで可能であろうか。

ここで考えたいことは、大切な自己の尊厳と、自分のことは自分で支えていこうという生活態度に目を向けることであろう。家族や社会からの温かい手には感謝を持つべきだろうが、それ以上に自ら進んで力いっぱい生きることの大切さに力を

入りたい。それこそ、人が真に生かされる道ではなからうか。

かの生き埋めにされた六十八歳の社長の心意気は、最後まで自分の足で大地に立とうとする自助努力以外の何物でもなく、それ故にこそ、神の守護もあつたのではないかと思われる。

「老若」は人によって決まる。人は神の守護によって棟で生まれ、そ

れぞれの歩みを続け、やがて裸で神の手の中に魂を委ねる。その時のための準備の時期、それが「老」であるとい

ろ。人間は最期は一人であるといふことを、徹底してわが心に刻むとともに、それが故に自己を人々にさげして自分のできる範囲で社会奉仕を心がけるところに、自己を神の手にて委ねて活(い)かす道があるのではないか。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「記」、選六十八句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されましたので転載させていただきます。おめでとうございます。

佳 詠 東悠分教会長夫人 田 林 美智子

旅日記感謝一入地場の春

▼鞆の浦桜歌

一、春は桜の山陽道に
においともなう塩の香よ
笠岡福山海沿いの
浪はただよう仙酔島
瀬戸の港の桜貝

寺 下 宏 一

二、今日も釣れたよ桜鯛
日本の魚目出度魚
一貫五百のこの鯛を
桜の下でめぐる漁師よ
鞆の港の桜唄

▼表紙の切り絵

芦品分教会 佐々木ふさ子さん(よふぼく)

教祖は、「働くというのは、はたはたの者を楽にするから、はたらくと言うのや」と教えられた。働くとは周囲の人を喜ばせることであり、人に喜んでいただく生活こそ、社会的な存在としての人間のあり方、生き方であろう。そしてそれは、へひのきしんへつながる「働き」としての生の真理をも指し示して下さっている。

いま若さを謳歌(おうか)している世代にも、やがて老いは来る。真の幸福を、いまの足取りの中に、ひのきしんの実践の中につかみ取っていただきたいもの。かく言う私は、この十一月で六十九歳。しかし、まだまだ若い命を社会貢献に燃やしたいと思っている。

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教170年4月14日終講
福 勇 酒 井 理 奈

◆青年会 伏せ込みひのきしん団参

*おぢばへ真実を伏せ込ませて頂きたい、との思いから、企画させて頂いています。あなたもぜひ、おぢばへ帰り、真実の汗を共に流しましょう

【日 時】 7月1日 午前8時

【集 合】 笠岡詰所、玄関前

【内 容】 こどもおぢばがえり準備 (パレードフロート製作)

◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわい第一条の慈しみ深い親心のまに／＼今正に春爛漫の旬ときを迎え 草花を始め虫鳥畜類等も皆喜びに満ち溢れております事は 誠に有難く改めて御守護お導きの程を御礼申し上げます

しかしその一方で「にんげんのわが子をもうもをなぢ事 こわきあふなきみちをあんぢる」とお聞かせ頂くように 前生や来生が理解わからず今生のみの救かりを追い求めるあまり 陰気ぐらしの深みに自らはまっぴる事に気付かずにいる人が弥増している事は誠に残念でなりません 私共は日々生かされている喜びを感じつつ親の心配を少しでも和らげたいものと 日々朝夕に御礼申し上げると共に御恩報じを思い念じてたすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いて親の思召を一人でも多くの人にお取り次ぎさせて頂いて頂いております

その中にもこの月十八日は教祖が二百九回目の御誕生日を迎えられましたので おぢばでは御誕生祭が執り行われ大変な賑わいをお見せ頂きました その喜び一杯の心のままに 只今からおつとめ奉仕者一同明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます 春の陽気に誘われるかのよう今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます 尚も変わらぬ御守護にお縋りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は世話人島村廣義先生にお越し頂いております おぢばの理を頂戴すると共に情報過多の世の中にあつてややもすると一人よがりの信仰に陥ってしまいうような中 おぢばの声を頂いて素直な心を磨き 道を違えず実動に邁進させて頂く所存でございます

又二十九日は全教一斉ひのきしんデーでございますので ひのきしんを通してようぼく信者同士喜びと感謝の気持ちを分かち合い 御恩報じの歩みを励まし合いたいと存じます 更には又一月から三月にかけて全部内教会を巡教させて頂き教祖百三十年祭に向けての成人の歩みの徹底を図らせて頂きましたが 来月重ねて直轄巡教をさせて頂き 全教会一つも洩れることなくおつとめ奉仕者の増員が達成できるよう更なる足固めをさせて頂く所存でございます

何卒親神様には皆の親孝心一筋の真実誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 真実の親を慕い一列兄弟の理に目覚めて助け合う人が弥増してお望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます



教祖120年 祭の年に大切な信者さんが、大きな身上を頂かれ、自ら

進んでまとまったお供をされた。私もその勢いに『連続〇〇日戸別訪問』を心定めた。無理と思える中、知恵を出し工夫して心定めを完遂した。余命三ヶ月と言われていたのが薬が効いて、完治までならないまでも祭典をつとめられるまで回復した。教祖伝逸話編に「前略。そっちで力を入れたら神も力を入れるのやで。この事は今だけの事やない程に」と。

年頭会議で大教会長様は、「教会の常時活動は、つとめと布教であり、つとめが第一と考えれば、おつとめ奉仕者の手を揃えることが次の塚へ向かっての大目標であり、おつとめ奉仕者に育て上げる筋道をこれから十年かけて歩まねばなりません。」と告示下さった。我が教会も高齢化に負けないよう相当力を入れて「オーゼイカ」になるよう頑張りたいものである。(え)